

# 従来とは異なる系統の ネギハモグリバエについて

令和元年6～8月に中南信地域で野菜花き試験場が採取した個体を、(国研)食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターに解析を依頼した結果、従来の塩基配列とは異なる別系統のネギハモグリバエであることが判明しました。

## 被害と診断

ネギハモグリバエの幼虫がねぎの葉に潜り込んで食害するため、白い筋状に被害が発生します(図1、2)。

今回見つかった別系統は従来の系統と比較すると1葉あたりの幼虫数が多いため、被害が甚大となります(図3)。

## 発生生態

従来の系統との生態的な差異はまだ解明されていないので、以下の記載は従来の系統に関する特徴です。

発育零点は約11℃で、県内では年に4～5世代発生します(25℃で約20日/世代)。たまねぎ、ねぎ等のユリ科ネギ属のみを食害します。

雌成虫は、葉に点々と小さな穴を開けて汁液を摂食し、摂食痕に産卵することが多いようです(図4、5)。

幼虫は成長すると葉から脱出し、地表や土中で蛹化して、蛹(又は幼虫)で越冬します。

## 防除対策と注意点について

県防除基準を参考に、ネギハモグリバエ又はハモグリバエ類に登録のある薬剤を散布してください。

定植時や土寄せ時に登録薬剤のかん注処理や粒剤散布も有効です。

## その他

被害にあったねぎを食べても、健康への影響はありません。



図1 ネギハモグリバエの幼虫  
(野花試原図)



図2 従来のネギハモグリバエ  
による被害



図3 別系統のネギハモグリバエによる被害



図4 ネギハモグリバエの雌成虫



図5 ネギハモグリバエの摂食痕

疑わしい被害等を見つけたら、最寄りの農業農村支援センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

長野県病害虫防除所 (東北信) ☎026-248-6471 (中南信) ☎0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 令和2年11月作成